

写真集出版のお知らせ

2018年9月22日（土）発売

『池田晶紀 Portrait Project 2012-2018 いなせな東京』



著者／池田晶紀

寄稿／小池一子、中村政人 デザイン／佐藤直樹、菊地昌隆（アジール）

発行／（一社）コマンドN

価格／3,200円（税抜） 頁数／176頁

判形／258mm×188mm 言語／日本語・英語

ISBN／978-4-9906596-2-2

「モデルが写真家に誘われて笑うのではなく、写真家自身とその場と人を楽しんで好きになっていなかったら、こういう写真は生まれない。」

— 小池一子（書中テキストより引用）

掲載
テキスト

・「いなせな東京」池田晶紀（写真家）

・「笑ってとめて」

小池一子（クリエイティブ・ディレクター、
十和田市現代美術館館長、武蔵野美術大学名誉教授）

・「仁義を切るアートプロジェクト」

中村政人（アーティスト、
アーツ千代田 3331統括ディレクター、東京藝術大学教授）

100点を超える“江戸っ子”のポートレイトをフルカラーで掲載した圧巻の写真集

本書は池田晶紀氏が「池田晶紀ポートレートプロジェクト（*）」において現代の“江戸っ子”をモデルに2012年から6年間に渡り撮影してきたポートレイトとその展示風景を収録した写真集。同書には池田氏のほか、青森県十和田市の市民プロジェクトに池田氏を招聘し、その魅力を知る小池一子氏と、本プロジェクトの仕掛人でもある中村政人によるテキストを掲載します。さらに2016年の文化庁メディア芸術祭や札幌国際芸術祭2017等のブランディング、プロモーションを手がけた株式会社アジールの佐藤直樹氏と菊地昌隆氏がデザインを担当。町の貴重な記録でありながら、クリエイターたちの思いが詰まった一冊となっています。

*池田晶紀ポートレートプロジェクトとは

写真家の池田晶紀氏が“神田っ子”をモデルにポートレイトを撮影する企画として始まり、2012年から足かけ6年に渡り継続するプロジェクト。神田を中心とした東京の町中で、地域住民や地元企業、同地の再開発を手がける建設会社をも巻き込み、アーティストたちが大小様々なアートプロジェクトを行う「TRANS ARTS TOKYO」を契機にスタートし、現在では千代田区全域にモデルの対象を広げています。



3331 CUBE shop&gallery（アーツ千代田 3331内）で9/22（土）より販売開始!

*全国の書店、Amazon等オンラインストアでも順次取扱い予定です。

[このプレスリリースに関するお問い合わせ先] 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331

〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14 TEL: 03-6803-2441(代表) FAX: 03-6803-2442

E-MAIL: pr@3331.jp<展覧会担当: 宍戸 広報担当: 岩垂> URL: https://www.3331.jp

■作家プロフィール

池田晶紀 Masanori Ikeda 写真家

1999年自ら運営していた「ドラックアウトスタジオ」で発表活動をはじめ。2003年よりポートレート・シリーズ『休日の写真館』の制作・発表を始める。2006年株式会社「ゆかい」設立。2010年スタジオを馬喰町へ移転。オルタナティブ・スペースを併設し、再び「ドラックアウトスタジオ」の名で運営を開始。国内外で個展・グループ展多数。アーティスト三田村光土里とのアートユニット「池田みどり」としても活動。フィンランドサウナクラブ会員、サウナスパ健康アドバイザー、シェアリングネイチャー指導員、水草レイアウト、かみふらの大使など。



©Ikenoya Yuka (YUKAI)

■執筆者プロフィール

小池一子 Kazuko Koike クリエイティブ・ディレクター、十和田市現代美術館館長、武蔵野美術大学名誉教授

早稲田大学文学部卒業。1980年「無印良品」創設に携わり、以来アドバイザー・ボードを務める。1983年にオルタナティブ・スペース「佐賀町エキジビット・スペース」を創設・主宰し、多くの現代美術家を国内外に紹介（～2000年）。ヴェニス・ビエンナーレ国際建築展日本館「少女都市」（2000年）、「横尾忠則 十和田ロマン展 POP IT ALL」（2017年、十和田市現代美術館）など展覧会を企画・監修。近著に「イッセイさんはどこからきたの?」（2017年、HeHe）他。



Photo by Taishi Hirokawa

中村政人 Masato Nakamura アーティスト、アーツ千代田 3331 統括ディレクター、東京藝術大学教授

1963年秋田県大館市生まれ。アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。アートを介してコミュニティと産業を繋げ、文化や社会を更新する都市創造のしくみをつくる社会派アーティスト。第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。平成22年度芸術選奨受賞。2018年日本建築学会文化賞受賞。1997年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰。全国で地域再生型アートプロジェクトを展開し、2010年、民設民営の文化施設「アーツ千代田 3331」を創設。



■デザイナープロフィール

佐藤直樹 Naoki Sato アートディレクター、デザイナー、アーツ千代田 3331 デザインディレクター

1961年東京都生まれ。北海道教育大学卒業後、信州大学で教育社会学・言語社会学を学ぶ。美学校・菊畑茂久馬絵画教場修了。

1998年、アジュール・デザイン（現アジュール）設立。2003～10年、「セントラルイースト東京」プロデュース。2010年、「アーツ千代田 3331」立ち上げに参画。「TRANS ARTS TOKYO」を機に絵画制作へと重心を移す。サンフランシスコ近代美術館パーマネントコレクションほか国内外で受賞多数。画集に『秘境の東京、そこで生きている』（東京キララ社）、著書に『無くならないーアートとデザインの間』（晶文社）など。美学校講師。多摩美術大学教授。



©Masanori Ikeda

菊地昌隆 Masataka Kikuchi アートディレクター、デザイナー

1987年福島県生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。2012年よりアジュール所属。グラフィックデザイン、ブックデザインを中心に活動。主に担当したデザインに「文化庁メディア芸術祭20周年企画展-変える力」、「オガールプロジェクト」、「ウルトラセブン放送開始50年特別企画展『70 CREATORS' SEVEN』」などがある。2018年にBall Design発足。



©Masanori Ikeda